

治水

発行 全国治水期成同盟会連合会

東京都千代田区麹町4丁目8番26号 ロイクラトン麹町
電話 03(3222)6663 FAX 03(3222)6664
ホームページ <http://zensuiren.org/>
お問い合わせ zensuiren@k2.dion.ne.jp
編集・発行 椿本和幸



最上川河口部スワンパーク 国土交通省 東北地方整備局 酒田河川国道事務所提供

● 目 次

全国治水期成同盟会連合会会長 岩井國臣 挨拶	2
「河川愛護月間」“絵手紙”入賞作品の決定!	3
名取川河口部復旧・復興事業の完成 と 賑わいのある名取川河口部に向けて	11
横瀬川ダム定礎式	14
起・小信中島堤防整備事業着工式典	18

全国治水期成同盟会連合会会長
岩井國臣 挨拶

平成30年の年頭に当たり、謹んでご挨拶申し上げます。

会員の皆様には、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げますとともに日頃の当連合会の運営に対する多大なご支援、ご鞭撻に衷心より御礼申し上げます。本年の皆様のご健勝にてのご活躍をお祈り申し上げます。

さて、皆様ご承知のとおり、昨年は、多くの台風が上陸するなど台風や集中豪雨などにより、これまでに経験したことがない雨量に見舞われ、全国各地で災害が発生しました。

特に7月の九州北部豪雨において、福岡県朝倉市において1時間の最大雨量129.5ミリ、24時間の最大雨量545.5ミリを観測するなどし、土砂災害や土砂・流木を含む洪水により、多くの尊い人命や家屋の倒壊、田畑の流出等甚大な被害に見舞われました。また、秋田県雄物川中流部におきましては7月、8月と記録的な大雨により、2ヵ月連続で浸水被害が発生しております。

このような中、既存の河川施設は、防災・減災効果を十分発揮していますが、まだまだ、河川施設の整備は、道半ばであり、計画的・予防的治水事業の重要性と必要性を身近に痛感いたしました。

今後とも、災害の外力となる降水量は、地球温暖化により、さらに巨大化、激甚化、頻発化していきます。また、南海トラフ巨大地震による津波の発生等が近づきつつあり、さらに検証作業を終えたダム建設事業が一斉に再開され、老朽化が進む河川管理施設の維持・更新及び魅力ある水辺空間の創出や、良好な自然環境の創出等の地域経済、観光振興等に貢献する取組の推進も必要となっております。

しかしながら、昨今の治水事業予算は、平成9年度をピークに大幅に削減され、半減しております。このままでは、所定の河川整備事業を計画的に推進していくことは困難ではないかと憂慮されます。

「大規模な水害は全国のどの河川でも起こりうるもの」との危機管理意識に立って、災害を未然に防止し、国民の生命と財産を守り、安全・安心かつ豊かで活力のある国土を構築するため、治水事業費を増額させ、根幹的な治水施設の整備を計画的に推進するため、会員の皆様をはじめ、治水事業を担当する皆様のご支援をいただき、全国治水期成同盟会連合会として取り組んでいく所存でありますので、より一層の関係各位のご支援をお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

「河川愛護月間」“絵手紙”入賞作品の決定！

国土交通省水管理・国土保全局治水課

国土交通省では、河川環境の保全・再生への取り組みを推進するとともに、国民の河川愛護意識を醸成することを目的として、毎年7月を河川愛護月間と定め、様々な活動を行っています。

本年度も月間行事の一環として、全国の小学生・中学生・高校生・一般の方々を対象に、川での思い出、川への思いを一枚のはがきに絵と文章を組み合わせて描いた絵手紙を募集したところ、全国各地から気持ちのこもった作品が多数（864点）寄せられました。

審査は、小学生低学年の部・小学生高学年の部・中学生の部・高校生の部・一般の部の5区分で行われ、この度、国土交通大臣賞（最優秀賞）1点、国土交通事務次官賞（優秀賞）6点、水管理・国土保全局長賞（優良賞）8点、審査員特別賞5点（計20点）が決定しました。

なお、入賞作品については、平成30年度「河川愛護月間」ポスター、チラシ等に使用するほか、河川愛護活動の推進に幅広く活用します。

受賞者及び入賞作品は、以下のとおりです。

<審査員>

安齋 千鶴子	（元 東京造形大学教授）
石橋 真理子	（ライター）
大平 信弘	（絵手紙募集実行委員会顧問）
小倉 紀雄	（東京農工大学名誉教授）
水野 麻紀子	（小学館ライフスタイル誌局 チーフプロデューサー）
山崎 登	（国土館大学防災・ 救急救助総合研究所教授）
山田 邦博	（国土交通省水管理・ 国土保全局長）

主催：国土交通省

協賛：一般社団法人 建設広報協会・公益社団法人
日本河川協会
一般財団法人 河川情報センター

平成 29 年度 河川愛護月間絵手紙 受賞者一覧

賞	部門	都道府県	学校名	学年	氏名
最優秀賞 (国土交通大臣賞)	中学生	大分県	おおいたしりつ だいとう 大分市立大東中学校	2	ゆふ みさき 油布 美咲
優秀賞 (国土交通事務次官賞)	小学生高学年	福岡県	のおがたしりつのおがたひがし 直方市立直方東小学校	4	かりや ともえ 仮屋 ともえ
	小学生高学年	愛知県	なごやしりつかすがの 名古屋市立春日野小学校	5	よねやま もね 米山 百音
	小学生高学年	徳島県	なるときょうだいがくふぞく 鳴門教育大学附属小学校	5	ゆあさ そういちろう 湯浅 聡一郎
	高校生	神奈川県	かながわけんりつやえい 神奈川県立弥栄高等学校	2	つちや さくら 土屋 さくら
	高校生	鳥取県	よなごしやういん 米子松蔭高等学校	3	たなか ゆきの 田中 友紀乃
	一般	千葉県			まつだ まさる 松田 まさる
優良賞 (水管理・国土保全局長賞)	小学生低学年	徳島県	とくしましすけとう 徳島市助任小学校	3	ゆあさ けい か 湯浅 慶香
	小学生低学年	高知県	こうちしりつひと ばし 高知市立一ツ橋小学校	3	しまだ もりの 島田 百璃乃
	小学生高学年	徳島県	よしのがわしりつかもじま 吉野川市立鴨島小学校	4	かみふじ ゆき ぽ 上藤 幸歩
	小学生高学年	高知県	こうちしりつはだ 高知市立秦小学校	4	たきやま りおん 瀧山 凜音
	中学生	岡山県	おかやましりつき び 岡山市立吉備中学校	2	いなだ ちはる 稲田 知陽
	中学生	香川県	みとよしりつとよなか 三豊市立豊中中学校	2	すが かのん 菅 花音
	高校生	三重県	み え けんりつよっかいち 三重県立四日市高等学校	1	はやし りんか 林 凜華
	一般	奈良県			きのした よしたけ 木下 佳威
審査員特別賞	小学生低学年	長崎県	ながさきだいがくきょういぐくふふぞく 長崎大学教育学部附属小学校	1	こばやし たくま 小林 拓真
	中学生	島根県	いずもしりつひかわひがし 出雲市立斐川東中学校	1	いしはら ゆきな 石原 幸奈
	中学生	島根県	いずもしりつひかわひがし 出雲市立斐川東中学校	2	いとう あやか 伊藤 綾香
	中学生	長崎県	みなみしまばらしりつ ありえ 南島原市立有家中学校	2	あんどう あかり 安藤 あかり
	高校生	鳥取県	よなごしやういん 米子松蔭高等学校	3	やまぐち ひなた 山口 陽

最優秀賞(国土交通大臣賞)



大分県 大分市立大東中学校
2年 油布 美咲

優秀賞(国土交通事務次官賞)

<小学生高学年の部>

<小学生高学年の部>



福岡県 直方市立直方東小学校
4年 仮屋 ともえ



愛知県 名古屋市立春日野小学校
5年 米山 百音

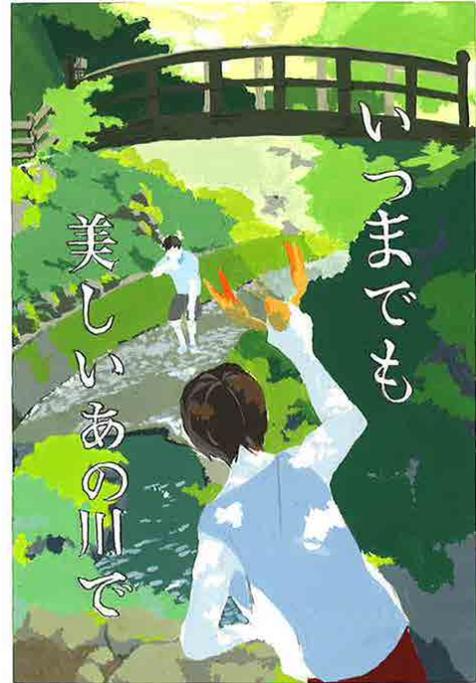
優秀賞(国土交通事務次官賞)

<小学生高学年の部>



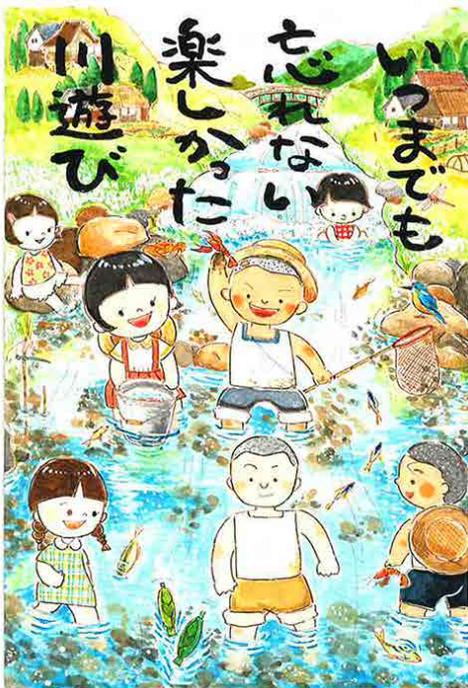
徳島県 鳴門教育大学附属小学校
5年 湯浅 聡一郎

<高校生の部>



神奈川県 神奈川県立弥栄高等学校
2年 土屋 さくら

<高校生の部>



鳥取県 米子松蔭高等学校
3年 田中 友紀乃

<一般の部>



千葉県
松田 まさる

優良賞(水管理・国土保全局長賞)

<小学生低学年の部>



徳島県 徳島市助任小学校
3年 湯浅 慶香

<小学生低学年の部>



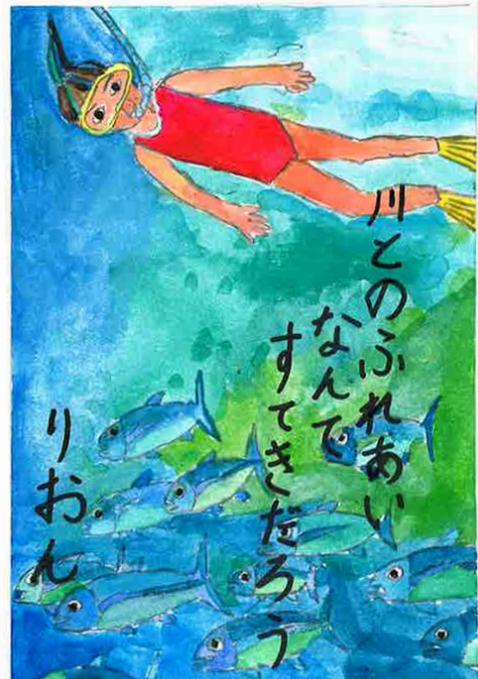
高知県 高知市立一ツ橋小学校
3年 島田 百璃乃

<小学生高学年の部>



徳島県 吉野川市立鴨島小学校
4年 上藤 幸歩

<小学生高学年の部>



高知県 高知市立秦小学校
4年 瀧山 凜音

優良賞(水管理・国土保全局長賞)

<中学生の部>



岡山県 岡山市立吉備中学校
2年 稲田 知陽

<中学生の部>



香川県 三豊市立豊中中学校
2年 菅 花音

<高校生の部>



三重県 三重県立四日市高等学校
1年 林 凜華

<一般の部>



奈良県
木下 佳威

審査員特別賞

<小学生低学年の部>



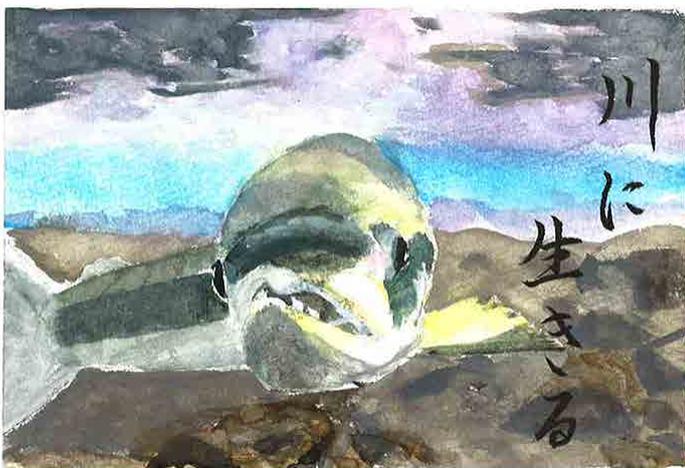
長崎県 長崎大学教育学部附属小学校
1年 小林 拓真

<中学生の部>



島根県 出雲市立斐川東中学校
1年 石原 幸奈

<中学生の部>



島根県 出雲市立斐川東中学校
2年 伊藤 綾香

<中学生の部>



長崎県 南島原市立有家中学校
2年 安藤 あかり

審査員特別賞

<高校生の部>



鳥取県 米子松蔭高等学校
3年 山口 陽

名取川河口部復旧・復興事業の完成と賑わいのある名取川河口部に向けて

国土交通省東北地方整備局仙台河川国道事務所

1. はじめに

平成23年3月11日、東北地方太平洋沖地震（以下、「東日本大震災」という。）の発生に伴い、北海道から沖縄の広範囲で津波が観測され、東北地方では太平洋沿岸地域を中心に壊滅的な被害を被った。

直轄河川の河口部においては、馬淵川、北上川、旧北上川、鳴瀬川、阿武隈川、そして、名取川でも地震による堤防の沈下や津波で越流し、国が管理する堤防や水門などの河川管理施設にも甚大な被害をもたらした。〈図-1〉



〈図-1〉 名取川堤防の被災状況

2. 名取川の概要

名取川は、その源を宮城県と山形県の県境にある神室岳に発し、仙台市の中心部を貫流する支川広瀬川と合流し太平洋に注ぐ幹川流路延長55.0km、流域面積939km²の一級河川であり、昭和16年に直轄河川改修事業として着手している。〈図-2〉



〈図-2〉 名取川位置図

3. 震災からの復旧・復興

(1) 震災前の状況

名取川は全川において、計画上必要とされる堤防の高さや幅は、概ね完成しており、唯一の無堤区間であった河口部左岸の藤塚地区で、良好な汽水域環境を有する井土浦（潟湖）を保全するため、治水と環境を調和しながら堤防整備を実施していた。〈図-3〉



〈図-3〉 震災前の井土浦（H21.10撮影）

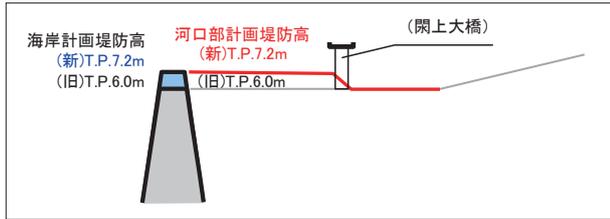
(2) 震災直後の緊急復旧

東日本大震災による地震と大津波によって、河口部の堤防は壊滅的な被害と広域地盤沈下（名取川河口部で約20cm）の影響が発生し、洪水時における浸水のリスクが生じることから、国土交通省東北地方整備局では、被災した堤防の応急復旧に着手。また、翌年の出水期までに従前の堤防機能を確保するため、緊急復旧に着手し、震災前の安全を確保した。

4. 新たな堤防計画

(1) 河口部河川堤防高

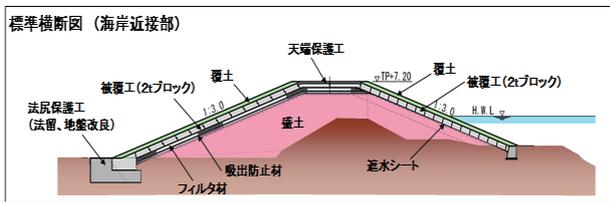
河口部の河川堤防高は、海岸堤防高と整合を図りながら、洪水、高潮、津波（施設計画上の津波）に対して必要とされる堤防高のうち最も高い堤防高を区間毎に設定し、旧計画（T.P 6.0m）に対して、海岸堤防と同じ高さであるT.P 7.2mとした。〈図-4〉



<図-4> 新旧堤防高の比較

(2) 河口部堤防構造

津波による越流を想定した区間(河口より約1.0km 区間)においては、巨大な津波が来襲しても堤防が決壊するまでの時間を少しでも引き延ばすよう「津波に対し粘りやすい構造」として、コンクリート構造による三面張を採用した。<図-5>



<図-5> 三面張り構造概略図

5. 河口部の復旧・復興

名取川河口部の復旧・復興にあたっては、沿川の仙台市や名取市の復興まちづくり計画と連携しながら、海岸堤防と一連となって津波防災効果が発揮するように整備を進めた。

また、復旧・復興を進めるにあたり、震災前の土地利用から、仙台市藤塚地区(左岸)は、良好な汽水域環境を有する井土浦を、極力、元の状態に近い自然環境を保つよう配慮した。名取市閑上地区(右岸)は、従前から港町として人を中心とした生活の営みの場であったことから、河川堤防と地域の生活を一体的として整備を進めた。<図-6>

東日本大震災の発災から約6年半の月日を費やし、総工費約200億円をかけ、堤防延長約3.4km(左岸約1.4km、右岸約2.0km)を完成させた。<図-7>



<図-6> 復旧した堤防と災害公営住宅の整備状況 (右岸：閑上地区)



<図-7> 復旧・復興事業の範囲

6. 「復興まちづくり」と「かわまちづくり」

名取川河口部右岸の名取市閑上地区は、名取市において土地区画整理事業や災害公営住宅などにより現地再建による復興まちづくりが進められている。

国土交通省は、水辺空間を活かした賑わい拠点整備として、親水護岸や新商業施設の基盤整備などを行う「かわまちづくり事業」や名取川の洪水時の緊急活動拠点となる「河川防災ステーション」の整備を一体となって進め、閑上地区の復興・再建を支援している。<図-8>



<図-8> 賑わい拠点整備のイメージ

7. 名取川河口部復旧・復興事業完成式の開催

沿川の復興まちづくりの基幹となる河川堤防が完成したことから、平成29年12月3日(日)に「名取川河口部復旧・復興事業完成式」を名取市閑上(河川防災ステーション整備箇所)で開催した。

式典には、郡仙台市長や山田名取市長のほか、用地協力をいただいた地域の方々など約100名のご出席のもと、地元名取市で活動している「閑上太鼓保存会」の勇壮な太鼓によるオープニング後に開式した。<図-9>



<図-9> 閉上太鼓保存会によるオープニング

冒頭、東日本大震災で犠牲になられた方々への黙祷を捧げた後、仙台市長、名取市長、国土交通省水管理・国土保全局治水課長の主催者挨拶、来賓の西村衆議院議員や秋葉衆議院議員、中野参議院議員からの祝辞をいただいた。

続いて、松居仙台河川国道事務所長の事業経過説明と地元の閉上中学校の生徒(2年生)から名取川河口部の堤防への想いを込めて発表いただき、事業完成を記念してくす玉の開披を行った。

<図-10,図-11>

最後に、賑わいのある名取川河口部に向けて、地元を代表し「(株)かわまち てら・す 閉上」の社長 櫻井広行様から未来に向けて宣言をいただき閉式した。



<図-10> 閉上中学校の生徒(2年生)による朗読



<図-11> くす玉開披の様子

8. 賑わいのある名取川河口部に向けて

完成式当日は、式の終了時間に併せて会場付近で、地域住民に日頃の感謝を込め、「(株)かわまち てら・す 閉上」から牡蠣汁の振る舞いと平成31年にオープン予定している新商業施設の一部店舗のお披露目が行われ、賑わいのある名取川河口部に向けての第一歩を踏み出した。<図-12>



<図-12> 牡蠣汁の振る舞いの様子

9. おわりに

沿川の復興まちづくりの基幹となる河口部河川堤防等の整備が完成したことにより、津波発生時の浸水被害の軽減など防災・減災機能が向上し、安全で安心なまちづくりに大きな前進が期待される。

また、宮城県が管理する貞山運河の河川管理施設や県道塩釜亘理線の嵩上げなどの復旧・復興事業が鋭意進められている。仙台市や名取市においては、農業の再生や減災機能の強化など被災地の新たな産業・工業用地の基盤整備など地域産業の再生が図られ、かつての自然環境と調和し、賑わいや活気のあふれる名取川河口部を取り戻すため、市町のまちづくりと連携・協働による地域づくりを進めて参りたい。

横瀬川ダム定礎式

国土交通省四国地方整備局中筋川総合開発工事事務所

1. はじめに

国土交通省四国地方整備局では、横瀬川ダムの基礎が立ち上がったことを記念するとともに、ダムの本格的な築造に際し、礎石を添えてダムの永久堅固と安泰を願うため、「横瀬川ダム定礎式」を行いました。本稿では、式典の様子についてご報告させていただきます。

2. 横瀬川ダムについて

横瀬川ダムは、渡川水系中筋川の一次左支川である横瀬川に「中筋川の洪水調節」・「四万十市の上水確保」・「中筋川における流水の正常な機能の維持」を目的とし、堤高72.1m、堤頂長188.5m、堤体積約165,000m³の計画で建設中の重力式コンクリートダムです。

ダム本体工事は、平成28年6月に西松建設と契約し10月に基礎掘削に着手、平成29年5月よりダム本体コンクリート打設を開始し、定礎式時点でダム高さ72.1mのうち18.5m、コンクリート打設量も全体の約2割まで打設が進んでいます。

3. 定礎式

定礎式は、平成29年12月3日(日)、横瀬川ダム建設現場(高知県宿毛市山奈町山田地先)において開催され、岩城高知県副知事、地元選出の国会議員の皆様や中平正宏四万十市長、中平富宏宿毛市長、地元関係者並びに工事関係者など約200名の方々に参加いただきました。

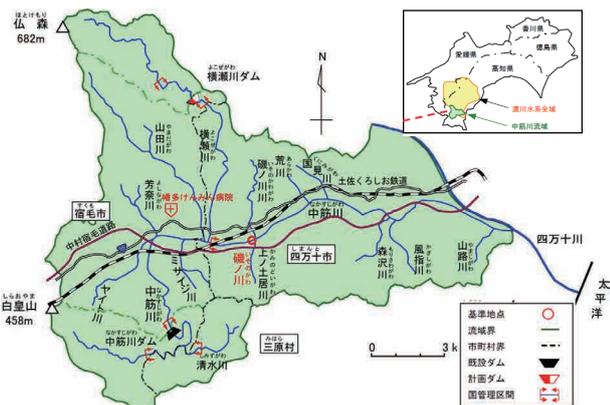


横瀬川ダム 完成パース

年	月	主な内容
平成 2年	6	事業着手
平成15年	4	工事用及び付替道路建設工事着手
平成20年	9	漁業損失補償契約締結
平成21年	8	仮排水トンネル着手(23年3月完成)
平成25年	1	ダム検証において建設事業継続を決定
平成28年	6	横瀬川ダム本体建設工事契約締結
	11	横瀬川ダム本体建設工事起工式
平成29年	5	横瀬川ダム本体コンクリート初打設

横瀬川ダム事業の主な経緯

式典では、平井四国地方整備局長が「横瀬川ダムが完成すれば、台風や大雨による浸水被害も軽減できると想定される。流域の安全・安心の確保に向けて努力していく。」と式辞を述べ、続いて牧野国土交通副大臣より「(同じ流域にある)中筋川ダムに加え、本ダムが完成することにより、流域の皆様の安全と安心が更に向上すると考えている。また、ダムツーリズムにも取り組んでいく。」と挨拶がありました。



中筋川流域図



<写真1> 平井四国地方整備局長 式辞



<写真2> 牧野国土交通副大臣 挨拶



<写真3> 横瀬川ダム定礎式会場全景

また、来賓者を代表し、岩城高知県副知事、山本有二衆議院議員、広田一衆議院議員、武内則男衆議院議員、高野光二郎参議院議員、中西哲参議院議員、足立敏之参議院議員、中平四万十市長、中平宿毛市長からご祝辞を頂きました。次に高橋中筋川総合開発工事事務所長から工事経過報告を行い、その後、式典のメインイベントである「定礎の儀(ていそのぎ)」を執り行いました。

はじめに、中筋川総合開発工事事務所の森本副所長を先達として、西松建設株式会社の職員が「木遣り唄(きやりうた)」に合わせて「礎石」(黒御影石:重さ40kg、幅42cm×高さ30cm×奥行き12cm)を搬入しました。



<写真4> 礎石搬入

搬入後は、礎石の四隅にモルタルを入れる「鎮定の儀(ちんていのぎ)」、モルタルを鍍で均す「齋鍍の儀(いみごてのぎ)」、木槌で礎石を叩き、納める「齋槌の儀(いみづちのぎ)」を執り行いました。その後、礎石の周りに地元小学生が将来の夢やダムへの想いを描いた「メモリアルストーン」を置き、それらをコンクリートで埋納するため、「埋納の儀(まいのうのぎ)」を執り行いました。タワークレーンで運ばれたコンクリートが定礎位置に到着し、「コンクリート投入」の合図により放出されると、会場からは大きな歓声が上がりました。



<写真5> 鎮定の儀(ちんていのぎ)



<写真6> 齋鍍の儀(いみごてのぎ)



<写真7> 齋槌の儀(いみづちのぎ)



<写真8> メモリアルストーン埋納



<写真9> 埋納の儀

その後、西松建設株式会社近藤社長より工事施工者挨拶を頂き、最後に式典の締めくくりとして、中平四万十市長のご発声にて参加者全員によるダム式

万歳と地元代表の皆様によるくす玉開披が執り行われました。



<写真10> ダム式万歳三唱とくす玉開披

4. 関連イベント

定礎式に引き続き、横瀬川ダム建設促進期成同盟会主催によるイベントとして「よさこい踊り」の披露や「もち投げ」が行われました。会場には地域住民約300名の方に来場いただき、たくさんのお餅やお菓子

がふるまわれ、皆さん大変喜んでいただきました。その後に関係者を含め約130名の参加で祝賀会が開催され、関係者及び地域の方々と共にダムの定礎を祝いました。



<写真11> 定礎イベント（餅投げ）



<写真12> 定礎式祝賀会

5. おわりに

この度、無事定礎を迎えることができましたこと、地権者の皆様をはじめとする地域の皆様、関係各位に心より感謝申し上げます。

今後も、事業の関係者が一丸となり、地域の皆様の想いや願いを胸に抱きながら、一日も早い完成を目指すとともに、完成するダムが地域に親しまれる施設になるよう、地域の皆様と共に事業を進めて参ります。

『起・小信中島堤防整備事業着工式典』の開催

国土交通省中部地方整備局木曾川上流河川事務所

はじめに

平成29年12月9日、愛知県一宮市富田地区において、木曾川河川改修事業の一環として行う木曾川左岸の起(おこし)・小信中島(このぶなかしま)地区の堤防工事に係る着工式典を開催しました。

式典は、木曾川上流河川事務所、愛知県、一宮市の共催で開催し、当該地区と関わりが深い国会議員や県議会議員、市議会議員をはじめ、地元消防団、沿川の地域住民の方、事業連携させていただいている学校関係者も含め、約200名の参加のもとで行われました。

1. 木曾川および流域の概要

木曾川は、中部地方では最も長い、幹川流路延長229km、その流域面積は、5,275km²の一級河川です。長野県にある木曾谷と呼ばれる渓谷を源流域として、中山道沿いに南南西に下り、途中、支川を合わせながら、濃尾平野に入った後は、北派川南派川に分派して再び合流し、一宮市の西側を南下して、背割堤を挟んで長良川と並行して流れ、伊勢湾に注いでいます。



＜図1＞ 木曾川流域図

木曾川は、豊富な降水と広大な流域面積から豊かな水量に恵まれ、古くから農業用水への利用は無論のこと、名古屋市を中心とする中京圏の水需要に対して、上水、工業用水を供給しており、流域だけでなく、広く生活や経済を支える河川として利用されています。

一方で、水害に対する危険度は非常に高く、濃尾

平野の発展の陰で、先人たちは幾多の苦闘を繰り広げてきました。

木曾川の本格的な治水事業は文禄2年(1593)から始められたと言われており、本川には約400年前に築造された「御囲堤(おかこいつつみ)」や右岸側に発達した「輪中(わじゅう)」といった歴史的な水防施設が現在まで残ります。



＜図2＞ 木曾川輪中と御囲堤

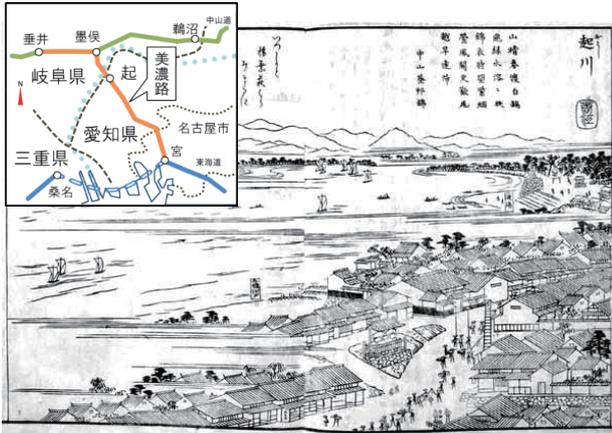
2. 起・小信中島地区の堤防整備について 治水整備の経緯

愛知県一宮市起地区は古くは東海道と中山道を結ぶ美濃路の宿場(起宿)でした。美濃路の道中では、木曾川を起川と記し、川幅は七百間(約1,300m)余りであり、西国から来た旅人にとっては、最初の大河であったといわれています。

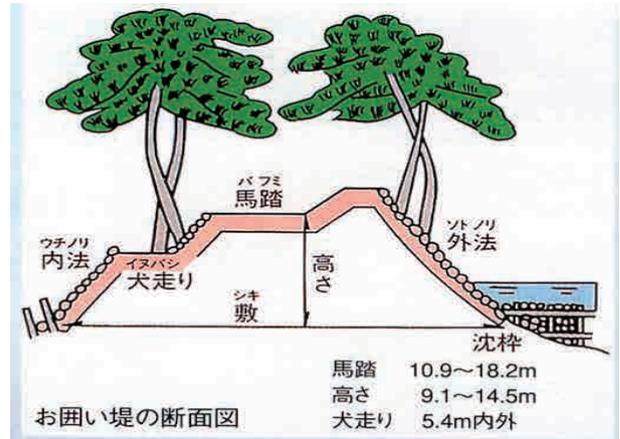
起川と呼ばれた木曾川区間の改修においては、江戸時代初期に、木曾川の左岸に尾張の国を洪水から守るため約4.7kmにもわたる大堤防「御囲堤(おかこいつつみ)」が整備され、その後も度重なる水害や治水工事を経て、昭和32年から昭和40年にかけて、現在の特設堤護岸が整備されました。

現在の堤防は、老朽化が著しく、また、現計画に必要な堤防断面の確保がなされていないことから、堤防

の拡張及び嵩上げを行い、量的、質的に堤防の安全度の向上を図る必要があります。



<図3> 尾張名所図会「起川」



<図4> 御囲い堤のイメージ図



<図5> 起・小信中島地区の現況写真

当該地区の堤防整備にあたっては、治水安全度の向上だけでなく、河川環境の保全や水辺空間の利用に配慮する必要があります。

本地区は、起宿（宿場町）として一宮市の無形文化財である「水天宮川まつり」等の伝統行事（芸能）や「起の渡し（渡船場）」、水害との戦いの遺産として「太閤堤」や「人柱観音」等、木曽川の変遷と共に発展してきた歴史と文化が豊かな地域です。

また、本地区は一宮市に於いて、「景観形成重要地区」に位置付けられており、木曽川に沿った広域的な遊歩道・自転車道が整備されてきたこと、木曽川には国の天然記念物である「イタセンパラ（タナゴ類）」が生息すること等から、文化、景観、生態系等、河川環境へ配慮した整備を関係機関、地域と連携しつつ実施する予定としています。



<図6> 水天宮川まつり（まきわら船の様子）



<図7> 昭和15年の起波船場（一宮市尾西歴史民俗資料館提供）



<図8> イタセンバラ（環境省：絶滅危惧種IA類）

3. 式典の概要

式典では、主催者である中部地方整備局の塚原局長、一宮市の中野市長の式辞、来賓の長坂康正・衆議院議員、岡本充功・衆議院議員、足立敏之・参議院議員のお三方からの祝辞を頂戴しました。地元住民の代表者からのご挨拶では、「現在、そして将来のことも考えて、ますます親しみやすい木曾川を残せるよう、安全で安心な堤防を造ってもらえればうれしい限りです」と事業への期待の言葉をいただきました。

また、木曾川上流河川事務所の堀事務所長からは「木曾三川の歴史と起・小信中島地区の堤防整備の必要性」について、事業報告を行い、続いて愛知県立木曾川高等学校の総合実務部からは、「イタセンバラ保護と広報、ワンドの保全活動」について、日頃の部活動の活動内容と全国的にも貴重なイタセンバラの保護に関する啓発活動や環境保全活動の取り組みの活動報告をして頂きました。

その後、鍬入れ式を行い、事業推進による地域の安全・安心、工事の安全を祈願しました。

最後に着工式典を記念して全国的にも有名な地元の木曾川高等学校のブラスバンド部における演奏の

披露があり、起・小信中島の木曾川の式典にちなんで、美空ひばりさんの「川の流れのように」の演奏もあり、式典後の出席者からは「良かった、涙腺がゆるんだ」などの感動の声が聞かれました。



図6 式典の様子



図7 鍬入れの様子



図8 木曾川高等学校によるイタセンバラの保護活動報告



図9 木曾川高等学校による式典会場のパネル説明



図10 木曾川高等学校による演奏の様子

4. おわりに

式典の開催にあたっては、様々な関係者の協力のおかげで、参加者の方、特に地元の学生の方々の記憶に残る式典を行うことができたのではないかと思います。また、地元の一部の方からも「ありがとう」というお声も頂きました。

この、起・小信中島地区の堤防の整備にあたっては、「治水」、「利水」、「環境」、というそれぞれの目標が調和しながら達成されるよう、地域のニーズ、利用状況等を踏まえ、今後とも関係機関と連携、協働しながら、一日でも早い完成に向けて整備を進めることが肝要と考えています。

最後に、当式典の開催にあたりご協力をいただいた関係者の皆さまに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

〈出典〉

1. 国立国会図書館デジタルコレクション